# Activequity、Liberty Winesを買収 英国・アイルランド有数の高級ワイン販売会社を傘下に

Alliance Wineへの出資に続き、ActivequityがLiberty Winesを買収。主要販売会社2社が同一投資会社の傘下に入り、Fergal TynanがLibertyを率いる。

2026年11月17日（火）



11月16日月曜日、Liberty Winesは、英国のプライベートエクイティ会社Activequityが、ロンドンに本拠を置くワイン輸入・販売会社の全株式を取得したと発表した。取得対象には、これまでポルトガルのワイングループSograpeが保有していた過半数株式も含まれる。

今回の取引により、英国とアイルランドで知名度の高い高級ワイン販売会社の一つが、すでに業界で足場を築きつつある投資会社の傘下に入る。Activequityは、世界の高級ワイン事業への投資を目的に設立されたと説明しており、2026年初めには、同市場で実績を持つ別の販売会社Alliance

Wineの過半数株式を取得している。

1997年創業のLiberty Winesは、25カ国以上の約400生産者から2,000を超えるワインを調達・輸入している。英国とアイルランド各地の外食・小売顧客に商品を供給し、レストラン、ホテル、バー、ケータリング事業者、独立系ワイン販売店などを取引先とする。同社の品ぞろえと市場展開力は、英国とアイルランドでの販売網を求める高級ワイン生産者にとって、重要な市場参入経路となっている。

Activequityは今回の取引に伴い、Alliance Wineの元マネージングディレクター、Fergal TynanがLiberty Winesの責任者に就任すると発表した。これにより、両社は同じ投資会社のポートフォリオに入ることになる。ただし、11月16日月曜日の発表では、両社の事業統合や合併については明らかにされていない。

買収と新たな役職について、Tynanは、生産者、顧客、従業員を重視し、品ぞろえの質、ワイン教育、顧客サービスに力を入れるというLibertyの方針に変わりはないと述べた。また、当面は最も取引が活発な時期に顧客への対応に注力するとした。さらに、Activequityの支援により、ワインの品質とサービスを最優先に保ちながら、既存の事業基盤を発展させられるとの考えを示した。

Liberty Winesは、所有者の変更により、事業拡大や販売・マーケティング活動、運転資金の確保に関するActivequityの経験を生かし、サービスを軸とする戦略を加速できると述べた。取引後に発表された最初のコメントを見る限り、新たなオーナーは短期的な事業再編ではなく、投資を通じた成長を支援する可能性がある。

Activequityのマネージングパートナー、Alexander Bartholomewは、Liberty Winesを「英国・アイルランドの高級ワイン業界で最も尊敬されている企業」と評した。同社には優れたチームと高品質な品ぞろえがあり、生産者や顧客との長年にわたる関係を築いていると述べ、Activequityは長期的な視点で事業を支援する意向だと付け加えた。

今回の買収は、単なる所有者の変更にとどまらない。高級ワインの主要販売会社であるLiberty WinesとAlliance Wineが、同じ金融スポンサーの傘下に入るためだ。これにより、英国のワイン流通市場の一部でさらなる集中が進み、一部のワイナリーが小売店、レストランなどの買い手に商品を届ける方法に影響が及ぶ可能性がある。取引条件や市場へのアクセスにどのような影響が出るかは不透明だが、事業規模、生産者との関係、物流が取引獲得の鍵となる飲料業界の一角で、Activequityの影響力は強まる。

供給業者、顧客、競合他社にとって当面の焦点は、Activequityが成長投資を進めながら両社を別々に運営するのか、それとも時間の経過とともに連携を深めるのかという点だ。現時点でLiberty Winesはサービスと戦略の継続性を強調し、Activequityは、高級ワイン流通で確立した地位を持つ企業への長期投資として買収を位置づけている。